

特集

婚活のススめ



“婚活”という言葉がテレビや雑誌に出るようになって、どれくらいたつでしょう。今では一個人の問題ではなく、地域の少子化や過疎化の問題とも結びつく事柄として、全国で多くの自治体が婚活支援事業を行っています。松浦市も“婚活”の支援を始めて1年がたちました。松浦市が支援する“婚活”の「今まで」と「これから」を紹介します。



「婚活」とは

婚活とは結婚活動の略で、家族社会学者である山田昌弘中央大学教授と少子化ジャーナリストの白河桃子さんの雑誌取材の中で生まれたとされています。

結婚を望む男女が、出会いの場を増やし、少しでも結婚できる可能性を増やそうと努力することです。

結婚の意志

国立社会保障・人口問題研究所が18歳以上35歳未満の未婚男女約7千人を対象に行った第14回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）

「異性と上手くコミュニケーションできない」「二人の方が気楽だから」などの理由から、（表1）にあるよう「一生結婚するつもりはない」という非婚を選択する人が少しずつ増えています。

その一方で、「子供や家庭を持つことによる精神的安らぎ」を求める人は多く、いずれは結婚しようと考えている未婚者の割合は男女ともに、9割

（表1）18～34歳未婚者の生涯の結婚意思

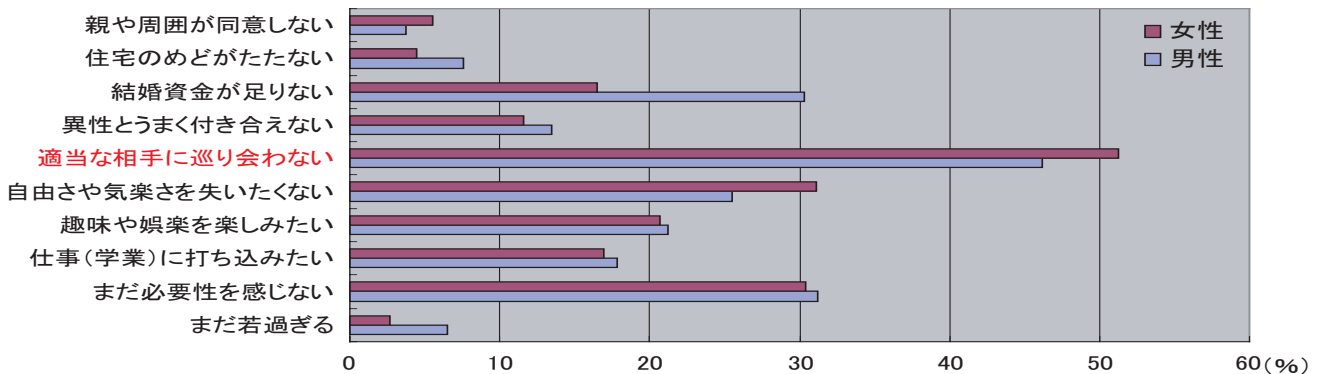
		第9回調査 (1987年)	第10回調査 (1992年)	第11回調査 (1997年)	第12回調査 (2002年)	第13回調査 (2005年)	第14回調査 (2010年)
男性	いずれ結婚するつもり	91.8%	90.0%	85.9%	87.0%	87.0%	86.3%
	一生結婚するつもりはない	4.5%	4.9%	6.3%	5.4%	7.1%	9.4%
	不詳	3.7%	5.1%	7.8%	7.7%	5.9%	4.3%
女性	いずれ結婚するつもり	92.9%	90.2%	89.1%	88.3%	90.0%	89.4%
	一生結婚するつもりはない	4.6%	5.2%	4.9%	5.0%	5.6%	6.8%
	不詳	2.5%	4.6%	6.0%	6.7%	4.3%	3.8%

弱で推移しており、依然として高い水準にあります。

（表2）によると、調査対象である18歳～34歳の未婚者のうち、より結婚を意識すると考えられる25歳～34歳の未婚男女が独身にとどまっている理由は、「適当な相手に巡り会わない」が1位となっています。

結婚したくても巡り会う機会が少ないために、結婚できないという人が多数いるという現実があります。

（表2）独身にとどまっている理由



自治体を取り組む婚活

近年、全国の自治体では、ますます深刻になる少子化や過疎化に歯止めをかけようと、婚活支援の取り組みが各地で行われるようになりました。

バーベキューや食事会、クルージングパーティー、さらには料理教室や農業体験といった体験型婚活イベントなど、出会い以外にも楽しむことができる婚活イベントも数多く開催されています。これらのイベントへの参加をきっかけにお付き合いが始まり、結婚に至ったという例も増え、自治体を取り組む婚活サポートの成果も着実に表れています。

結婚までの過程は、人それぞれですが、将来のパートナーを探す選択肢の1つとして、婚活イベントへの参加を考える人も増えているようです。まずは、お気軽に参加してみませんか。

